

早稲田大学野球部が日本の野球に貢献してきたこと

Waseda University baseball club having contributed to Japanese baseball

1K04B230-7

山田 篤

指導教員

主査 宝田雄大先生

副査 彼末一之先生

緒言

20 世紀初め、日本の野球は学生野球を中心に発展していった。その中でも、特に早稲田大学野球部の存在が大きい。

本研究では、野球がアメリカから伝わってから第二次世界大戦後までの日本の野球史に重点を置き、早大野球部の歴史を振り返りながら、日本の野球発展に早大野球部が貢献したことについて明らかにしていく。

第 1 章 日本の野球のはじまり

日本への野球の伝来には様々な説がある。その中でも 1972(明治 5)年に開成学校(現東京大学)の英語教師であるアメリカ人ホレエス・ウィルソンが学生に教えた時という説が定着した。

当時の野球はグラブやミットもなく、投手は下方からソフトボールのように投げ、捕手は今よりずっと後ろにいて、投手が投げたボールをワンバウンドで捕球していた。ファールはノーカウント、ボールはファイブボール制であった。野手も素手で守っていたので、フライはワンバウンドで捕球すればアウトという、現在の野球とはかけ離れたスポーツであった。また当然、ユニフォームもない為、選手は袴をまくり上げ、裸足でプレーをするほどであった。それでも学生たちは野球に熱中し、これに感化された東京の各学校に野球は広まっていた。

一高が頭角を現し、日本の野球界の頂点に君臨した。このときに中馬庚によって、「ベースボール」が「野球」と訳された。

第 2 章 野球の発展

早稲田大学野球部が 1901(明治 34)年に創部された。慶應に挑戦状を送り、伝統の早慶戦が始まった。やがて早慶は王者の一高を倒し、野球の新時代を迎える。「天下分け目の早慶戦」と称され、早慶を中心に野球が急速に普及・発展していく。その中でも、早稲田が史上初の海外遠征を実現。アメリカで最新の技術を学び、日本に伝え、日本の野球に大きな影響を与えた。1906(明治 39)年秋、早慶戦は両校の過激な応援によりこれより 19 年間中止された。

第 3 章 日本のプロ野球の誕生

1920(大正 9)年、早稲田を卒業した押川清、河野安通志らによって日本運動協会チームが創られた。これが日本における初のプロ野球チームである。

1936(昭和 11)年、職業野球連盟結成時には、大阪タイガース、阪急軍、名古屋軍、名古屋金鯱軍、大東京軍、東京セネターズ、東京巨人軍の合計 7 チームが参加した。

第 4 章 野球の起源

野球の起源は「スール」または「シュール」と呼ばれている競技にある。これは、フットボール、ホッケー、クリケットなどボールを扱うスポーツの原型でもある。そして、現代の野球の出発点とされているのがニッカーボッカー式ベースボールといわれている。

第 5 章 六大学野球リーグができるまで

1913(大正 2)年、早稲田・慶應・明治で 3 大学リーグが結成された。その後、1917(大正 6)年に法政、1921 年(大正 10)年の秋に立教、1925(大正 14)年に東大が加盟し東京六大学野球が発足した。そして、絶縁状態であった早慶が秋のシーズンから伝統の早慶戦が復活し六大学リーグがスタートした。

第 6 章 戦後の野球

野球の早期復興のため、早稲田・慶應が各地で全早慶戦を敢行した。これが日本の野球ブームにまた火をつけ、1946(昭和 21)年の東京六大学野球リーグの復活に結びついた。また、1950(昭和 25)年の秋季リーグ戦において昭和天皇、皇后両陛下が早慶戦に行幸啓された。戦後の野球は早慶が中心となって活躍した。

第 7 章 早稲田大学野球部を築いた人たち

「日本野球の父」とまで称されるようになった野球部初代部長の安部磯雄と、その精神を受け継いだ飛田穂洲、石井連蔵について調べた。安部磯雄の発案によって初の海外遠征が決まり、日本の野球に革命をもたらした。その安部を師と仰ぎ、早大野球部、日本の野球をさらに発展させたのが飛田であり、六大学リーグを発足させ、太平洋戦争後の野球の早期復帰に向け尽力した。安部、飛田に続き石井は日米大学野球の定期線を実現し、日本の野球の更なる発展に貢献した。

考察

日本における野球が今日まで発展してきたのは、早大野球部の功績なしではありえなかっただろう。中でも、早大野球部初代部長の安部磯雄の偉業なしには語れない。早稲田が海外遠征をここで行わなかったら、日本の野球の発展は、あと何年遅れたかわからない。この快挙で、当時の閉ざされた日本の野球界に革命をもたらした。

日本野球史初の海外遠征、伝統の早慶戦、六大学野球、プロ野球など、日本の野球発展で重要なポイントには常に早稲田が深く関わってきた。従って、早稲田が日本の野球界を牽引してきたと言っても過言ではないだろう。